



足尾銅山を世界遺産へ

～足尾銅山を構成する資産の紹介①～

市では昨年9月26日に、県と共同で世界文化遺産国内暫定一覽表へ追加記載をするための提案書を文化庁に提出しました。広報にっこうでも昨年11月号で、そのコンセプト(基本的な考え方)と構成資産の概要をお知らせしました。

今月号から3回にわたり、足尾銅山を構成する各資産を詳しく紹介します。

足尾銅山の構成資産は提案書のコンセプトに沿って、足尾地域に現在も残っているものを選びました。

今回紹介する資産は、3つの主要な坑道や、採鉱技術に大きな影響を与えた2つの動力所、爆薬類の保管庫だった火薬庫、採掘された鉱石を選り分ける選鉱所の計7施設です。これらを含め、ほとんどの資産は鉱山施設です。そのため、一部が観光施設として一般に公開されているほかは、安全管理上の問題などから立ち入ることができず、外観

しか見ることができません。なお、紹介する資産の内容は、県が作成した近代化遺産総合調査報告書などの資料に基づいています。

各構成資産の位置は、提案書に掲載されています。提案書は生涯学習課窓口に置いてあるほか、市ホームページでご覧になれます。また、観光パンフレットや足尾銅山観光に設置されている観光案内板などでもご覧になれます。

くわしくは生涯学習課 文化係
☎(21)5182



③ 通洞坑

明治19年に開削が始まり、同29年に完成しました。開削には、蒸気タービンによる圧縮空気を動力とした削岩機や、ダイナマイトによる発破工法など、当時の最新技術が導入されました。これは、積極的な技術革新を進めた古河鉱業の姿勢を現しています。

現在は、坑道の一部が足尾銅山観光として利用されています。また今年2月には、国の史跡に指定される予定です。



④ 本山動力所(コンプレッサー室・写真上)

動力所では、削岩機の動力源である圧縮空気がコンプレッサーによって作られています。またそのための電気は、間藤発電所(後に細尾発電所)から送られた高圧電力を併設の変電設備で変圧し、供給されていました。

明治45年には、通洞動力所に大型コンプレッサー「インガーソルランドPE-2」が導入されました。このコンプレッ

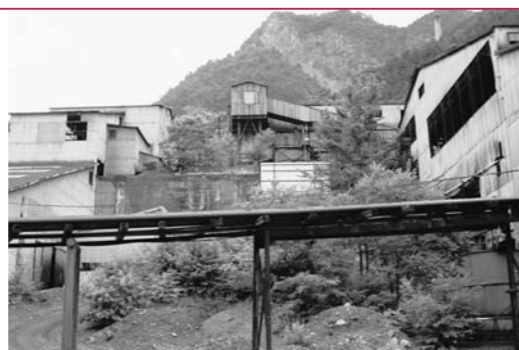


サーは、当時の国内の鉱山では最大となる30馬力の出力を誇りました。大正3年には、本山動力所にも同型のコンプレッサーが導入されました。閉山時には、インガーソルランドPE-2が2台、同PRE-2が1台、同PRE-2Sが1台の計4台が設置されていました。本山動力所には現在も、大型コンプレッサーが保管されています。



⑥ 宇都野火薬庫跡

近代の採鉱技術に大きな影響を与えた火薬類の保管庫です。明治45年に建築され、その後増築が繰り返されて、大正8年に完成しました。火薬類の保管庫やダイナマイト庫、雷管・導火線庫、火薬の梱包作業所で構成されています。火薬類の誘爆事故を防ぐ堅固な構造は、当時の銃砲火薬類取締法に定められた仕様が忠実に反映されています。今年2月には、国の史跡に指定される予定です。



⑦ 通洞選鉱所

選鉱所は、坑内から採掘された鉱石を選り分けて、製錬所へ送る役割を担っていました。本山、小滝、通洞の主要坑口にはそれぞれ選鉱所がありました。大正10年までに通洞選鉱所に集約されました。大正12年には、最新鋭の設備が配備され、金属鉱山の選鉱所のモデルとして国内外で高く評価されました。

現在は、隣接するグラウンドから見ることができ



① 本山坑

足尾銅山の主要な坑道の一つです。明治時代初期までは梨木坑と呼ばれていましたが、足尾銅山の経営者だった古河市兵衛によって本山坑と改名されました。明治16年に江戸時代からあった旧坑道を再開発したもので、開削には当時の最新鋭だった機械が導入されました。昭和48年の閉山まで、この坑道を中心に採鉱が行われました。

現在、坑口付近には案内板が設置されています。



② 小滝坑跡

明治18年に江戸時代からあった旧坑道を再開発したものです。通洞坑と並ぶ産銅量を誇り、昭和29年に廃坑となるまでの約70年間、大いに栄えた。当時は、溪谷沿いの狭い土地に、坑夫たちの社宅や商店、学校、病院などが立ち並び、最盛期には約1万2千人が暮らしていました。

現在は市の指定文化財として保存されており、坑口付近には案内板が設置されています。